様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）(平成２７年度)

1．機関番号　３２６０４

2．研究機関名　大妻女子大学

3．研究種目名　挑戦的萌芽研究

4．補助事業期間　平成２７年度～平成２９年度

5．課題番号　１５Ｋ１２８５２

6．研究課題名　日中戦争の記憶と表象に関する総合的研究――1940-1960年代を中心に

7．研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
１０４３３７０７	ゴミブチ　ノリツグ 五味渕　典嗣	文学部	准教授

8．研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9．研究実績の概要

平成27年度は研究の始発期・離陸期と位置付け、以下の活動を行った。
（１）関連資料と先行研究の集積。本研究課題が対象としている1940-1960年代の日中戦争にかかる戦争記憶について、主に1940年代と1960年代に注目、当該時期の文学作品・戦争体験記・戦争映画関連の資料を収集した。また、日中戦争初期の激戦地に部隊を派遣した地域の戦争記憶を確認するため、上海作戦・南京作戦・徐州作戦に参加した部隊の所在地を複数ピック・アップし、現地で刊行されている従軍体験記や地域の戦争記憶にかかわる文献の調査と収集を行った。
（２）研究成果の中間まとめと公表。中国との戦闘が継続していた同時代であるアジア・太平洋戦争期（1945年まで）の戦争表象・戦場表象について、これまでの調査・分析の成果をとりまとめた。また、戦争・戦場をめぐる語りに登場する台湾人・朝鮮人表象についても、資料調査にもとづく報告をおこなった。
（３）関連テーマでの国際ワークショップの開催。本研究課題の現在的な意義を確認・検証することを目的として、2011年3月の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の過酷事故以後の記憶が、東京のメディアと福島県浜通りの地域においてそれぞれどのように語られている（語られていない）かを考える移動ワークショップを共催した。アジア・太平洋戦争にかかわる戦争記憶の語りは、敗戦後の日本社会を下支えする物語の基点となったが、3・11以後の〈復興と再生〉の物語にはらまれたナショナリズムの問題を批判的に捉え返すために、地域の記憶を再評価する必要性が確認された。

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。